

編集後記

『日中語彙研究』第3号が完成しましたので、読者諸賢にお読みいただければ幸いです。

今号の目次をご覧になられればお分かりだと思いますが、先ず注目すべきは《現代汉语词典》第六版についての論文だと思います。ご存知のように、《現代汉语词典》は中国語辞書の中でも権威的な存在で、中国語語彙についての解釈や中国語と他言語との対照研究をする場合、《現代汉语词典》を根拠にすることがほとんどだと思います。しかしどの辞書もそうですが、再検討すべきところ、改善する余地がこれ以上ないとは絶対に言えません。元広島県立大学教授田忠魁先生は、《現代汉语词典》第六版について、親文字の収録や見出しの立て方などに再検討あるいは改善の必要がある箇所を、丹念に分析しその理由を明確にした上で指摘しておられます。先生のご指摘のすべてが適切かどうかは読者諸賢のご判断にゆだねたいと思いますが、このような研究態度、また研究精神には、編集委員の一人として心からの敬意を表したいと思います。

近年来、レアリアを利用して、外国語教育を行うことが少しずつ増えてきました。一方、レアリアの素材であるチラスの語彙的な特質（あるいは特徴）についての論述はまだ不足しているように思われます。本号に掲載している中西千香先生の「レアリアにあらわれる中国語の語彙的特徴—スーパーのチラスを中心に—」という論文はこの空白を埋めるものだと思います。

蘇紅先生の「色彩語の日中対照研究—赤・黄・黒・白の四色を例として対照する場合—」という論文も非常にユニークなものです。日中両国語の、赤、黄、黒、白と、四つの色彩語を対象に、本来義・展開義・比喩義の具体的用例を駆使して対照比較をしておられます。色自身のことだけ考えればさほど問題にはなりません、その背景にあるそれぞれの国の歴史・社会・文化などによる違いが相当あるようで、語学研究にしても言語教育にしても、言葉と文化両者の間に切っても切れない関係があることが、本論文によって、はっきり理解できると思います。

日中語彙研究者を目指す大学院生の投稿から、二本選んで掲載いたしました。その一つは、日本語の「買う」「売る」と中国語の“买”“卖”を中心に、コーパスから言語の資料を収集・分類した上で、各動詞の意味用法について対照分析したものです。対照分析ということで、認知意味論に基づき、「買う」「売る」「买”“卖”の意味の統合的なネットワークモデルを構築し、両言語の動詞の共通点と相違点をより明らかにしています。もう一つは日中両国語の外来語についての論文です。同じ語源からの外来語であっても、意味、文法的性質、付加的性質などの面から比較して見れば、日中両国語は必ずしも同じとは限らないことを明らかにし、いくつかの具体例をあげてその差異を説明しています。

辞典史では、引き続き資料によって語る本編纂所の歴史ということで、関係者しか知りえないような事柄を含めて、興味深いものとなっていると思います。読者に人気のある中国語の新語・流行語や中国における日中語彙対照研究の動向については、引き続き今年度も掲載させていただきます。

『日中語彙研究』を今後もさらに充実させ、読者諸賢にご満足いただけるよう頑張っ参りたいと思っております。ご意見・ご要望などがあれば是非お教えいただき、またより多くの皆様からのご投稿をお待ちしております。

(編集委員会)

『日中語彙研究』第3号

2014年3月31日発行

編集・発行 愛知大学中日大辞典編纂所

名古屋市中村区平池町4-60-6 〒453-8777

Tel. 052-564-6122 Fax. 052-564-6222

<http://leo.aichi-u.ac.jp/~jiten/>

組版 株式会社あるむ
